

## ボリビアのサンファン移住地での活動を終えるにあたり【最終報告】

H 2 6 - 0 次隊 JICA 日系社会シニアボランティア  
高齢者介護/ソーシャルワーカー 横山 勉



2年前の2014年7月7日に成田空港を発ち、約35時間という長旅を終え、到着した地こそ、2年間の協力隊活動の任国である南米のボリビア。

昔、スペインの植民地だったことから、重圧感のある教会がいたるところで見られ、その歴史を身近に感じ取ることが出来ます。また、アンデスの山々が連なり、民族衣装を纏った先住民が行きかう街並み、チャランゴやサンポーニャが奏でるフォルクローレ、そして、世界最大の塩の湖「ウユニ塩湖」と、まさに、人々を魅了する不思議な国・ボリビアでの活動を振り返りながら、私からの最終報告といたします。

南米の各国(ブラジル・パラグアイ・ペルー・ボリビア・アルゼンチンなど)には、戦後、日本各地から多くの日本人が、新天地を求めて移住し、私の任国であるボリビアにも、多くの日本人が移住してきましたが、大きく2か所の移住地が出来、1か所は、オキナワ移住地、そして、私の活動拠点となったサンファン移住地です。ここサンファン移住地には、長崎県や福岡県出身の方々が多く、次いで、高知県、北海道などからも、移住されていて、新潟県からも、2組のご家族が、今現在も生活をされています。

今から約60年前、海外に移住し、新たな地で生活をスタートしようと、大きな夢を抱いてボリビアに足を踏み入れたものの、そこは、日本で描いていた新天地とは、ほど遠い未開のジャングル。密林の大木を切り倒すための十分な機材もない状況での過酷な日々が何年も続く中、ようやく、その努力も実を結び、稲作や酪農、そして、養鶏などを大々的に営むことが出来るまでになり、今現在のサンファン移住地を築き上げたのが、一世の方々でした。

移住当時、20代、30代の方々も、今は、80代、90代と高齢を迎え、事業を二世や三世の息子や孫などに引き継ぎ、今は、穏やかに余生を送っておられますが、やはり、日本と同様に、サンファン移住地にも、確実に高齢化の波が押し寄せてきており、高齢者の方々の福祉政策を、早急に整備しなければ

ない状況となってきました。

私の活動は、サンファン移住地における高齢者の方々が、今後も安心・安全に暮らしていけるための将来を見据えた移住地の福祉の基盤整備が、大きな活動目標ですが、その活動目標を達成するための第一歩となる基礎づくりこそが、2年間での果たすべき役割と考え、今日まで、活動を展開してきたところですが、その基礎づくりの中で、最も重要と考えていたことは、「互いの連携づくり」です。一人の高齢者を、あらゆる関係機関(関係者)が連携を図り、互いに支え合っていくことが、このサンファン移住地には必要であり、関係者と幾度となく話し合いながら、協働にてさまざまな事業を展開してきました。

その事業等は、これまでの報告書にもあるように、高齢者の健康診断への同席(保健との連携)、各区民会館を巡回しての認知症出前講座開催(地域社会との連携)、個別訪問(地域社会・医療・保健との連携)など、まさに、「医療・保健・福祉・地域社会」間の連携づくりです。

これまで、医療は医療、保健は保健と、情報共有することなく、連携体制のない状況は、まさに、ばらばらの状態での個別支援でしたが、これからの高齢者福祉は、互いに情報を共有し、連携体制にて支えていくことで、高齢者の方々が、安心・安全に移住地で暮らしていける重要な視点ではないかと思っています。

福祉領域の長期隊員として、初めて赴任した移住地での活動も、今年の6月末で終了することとなりますが、次期後任隊員には、これまでの基礎づくりとして展開してきた事業を継続していくことと併せて、当然に、残された「福祉の基盤づくり」を、一步一步着実に築き上げていってほしい...と、願っています。

最後になりますが、南米への移民政策により多くの日本人が移住し、その異国の地で、血のにじむ過酷な労働により、やっと安住の地をつくりあげた日本人の方々がいること、そして、その地において、日本の伝統文化や日本語を脈々と後世に受け継ぎながら、ボリビアという異国の地でも、日本人として誇りを持ち、精一杯生きている移住地の方々がいることを、私たちは、けっして忘れてはならないと思います。

移住地で、高齢者福祉に関わることが出来たこと、そして、過酷ではありましたが、移住によりサンファンという日本人移住地を築き上げた歴史を、一世の方々から学ぶことが出来たことに深く感謝するとともに、今後、サンファン移住地の益々の発展を切に願いながら、私の最終報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成 28 年 7 月 14 日

## 現地の風景【ボリビアの紹介】

南米ボリビアとサンファン移住地について、一部ですが、ご紹介します。

### 1.ボリビアの首都「ラパス」の街並み

すり鉢状の土地に、ところ狭しと立ち並ぶ家々。遠くに見える山並みは、雪に覆われたアンデスの山々。



憲法上では、スクレが首都ですが、現在は、国際機関等があるラパスが首都になっています。

特に、「ラパス」には、チョリータと呼ばれる先住民(主に女性)が多く住んでおり、街中のあちらこちらで見かけます。独特の民族衣装ですね。



### 2.サンファン移住地の紹介

移住地では、日本のさまざまな行事を大切に受け継いでいますが、その中の「運動会・盆踊り・敬老会」を紹介します。

高齢者から若者、そして、子供達と、移住地挙げての運動会は、7区(富士区・大和区・西川区・共励区・ビクトル区・中央区・栄町区)対抗で行われるなど、大変な盛り上がりとなる運動会です。



【運動会の開会式の様子】



サンファン学園のグラウンドで、いよいよ競技開始。



サンファン学園の子供達も参加。



青年会の若者による「アベック・デカパン競争」...息を合わせて！！！！



- 3.運動会と同様、移住地内の大行事である「大盆踊り大会」  
老いも若きも夜が更けるまで踊り続ける最高の時間が流れます。  
ボリビア人の女性も浴衣を着て踊りの輪に...



私は、焼きそばコーナーを担当。美味しい焼きそばが出来上がりました。





4.日系一世である高齢者の方々の長寿を祝う「敬老会」  
サンファン移住地内の高齢者の方々の集合記念写。



子供達が「ポリビアダンス」を披露。衣装がとても綺麗ですね。



5.ポリビアの老人ホーム

ポリビア(サンタクルス市)の老人ホームを見学。ポリビアの老人ホームは、すべて教会が運営し、このホームには、約140名のポリビア人(日本人の女性が2名入所)の高齢者が入所されています。



施設内外は、とても綺麗です。



女性の方々が入所されている棟を見学。ちょうど、3時のお茶の時間。



見学时、気さくに声を掛けてきた入所者の皆さん。





## 6.忘れてはならない「日本人の南米移住」について

新天地を求めてポリビアに向け出港する直前の集合写真。不安と期待を胸に…。



多くの移住者に乗せ、ポリビアに向け横浜港を出航する「ぶらじる丸」



新天地と思っていたその地は、まさかのジャングル。移住したその日からジャングルを切り開く過酷な日々が続きました。





日本から持ち込んだ農機具の数々。移住資料館より...

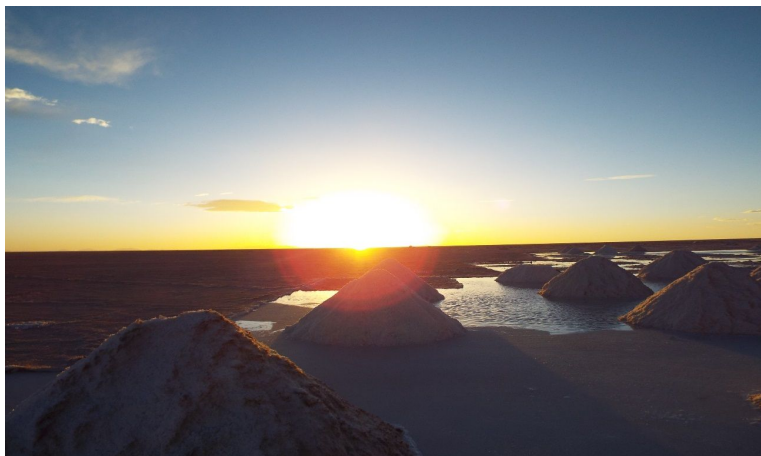


## 7.世界の美しい風景の一つ「ウユニ塩湖」

最後に、世界の美しい風景の一つ「ウユニ塩湖」を、一部紹介します。  
見渡す限り、塩の地平線。ウユニ塩湖は、パリ～ダ・カールラリーのコース  
となっています。



ウユニ塩湖の夕日。とっても綺麗な夕日でした。



ウユニ塩湖に向かう途中、アルパカの仲間「リヤマ」と「ビクーニャ」が、歓迎してくれました。

【リヤマ】



【ビクーニャ】

